



ひまわり通信

令和7年度第3号 2025年7月10日発行



森養ひまわり応援隊 代表 伊藤寿美

TEL 080-3324-9469

【連絡先】事務局 工藤道子

TEL 090-5186-9334 FAX 0178-38-9850

E-mail kudou.michiko@lemon.plala.or.jp

県民対話集会「#あおばな」 第121回

in 森田養護学校 2025.6.11

森養ひまわり応援隊 宮下知事と対話！！

始まりは2025年2月。伊藤寿美代表から「ひまわり応援隊で#あおばなに出たいんだけど、どう思います？」と相談を受けました。私は伊藤代表の積極的で熱い思いに感動し、当時の菊地校長にお願いに行ったところ、菊地校長は日時・会場などをすぐに確認してくださり、#あおばなへの応募を快諾してくださいました。

2月下旬に応募、3月末に採択の通知があり、6/11の開催に向けて参加者と具体的な発言内容などを準備、山本智香子さんを中心に「ひまわりうちわ」を制作するなどして当日に臨みました。

宮下知事は10時過ぎに来校。鈴木校長が職員玄関で出迎えて、中学部・高等部の生徒の作業製品をプレゼント！宮下知事はこぎんのバックやカッティングボードなどを手にし、丁寧で精巧な手仕事にとっても感動した様子で、対話集会の中で何度も話題にしていました。さらに最後にぜひ校内を回って児童生徒たちの様子を見学したいということで、対話集会終了後に木村教頭の案内で校内を回りました。高等部は産業現場等における実習で不在でしたが、中学部や小学部の教室で子どもたちの大歓迎を受けて、宮下知事は満面の笑みでした😊



宮下知事との記念写真。参加者9名と運営スタッフの木村推進員と柿本さん。



知事「この2年間で1番元気の歓迎です！」



車座で対話。司会は宮下知事！



上段左から、大平奈央さん・工藤道子さん・宮下知事・伊藤寿美代表・福士素子さん。下段左から、舘山夢子さん・赤城幸太郎さん・平山正子さん・伊藤栄治さん・三上瑞枝さん（後方に木村推進員）。笑顔がはじける楽しい対話集会になった😊

対話集会は宮下知事の司会進行で行われました。まずは自己紹介。一回りした後、大平奈央さんが作ってくれた動画を上映しました。ひまわり応援隊の一年間の活動をいきものがかりの「笑顔」に合わせて約3分40秒にまとめたものです。視聴後に宮下知事の「すごいね～！　すごい活動だね！　ひまわり応援隊の特別顧問に就任だ👏」の声に、一同ビックリ。ホントに？　嘘でもうれしい～！！

後半は「ボランティアの輪をもっと地域に広げるために」というテーマに沿って、それぞれの発言後に宮下知事が質問や感想・意見を述べる形で対話集会は進んでいきました。



大平さん制作の動画を視聴中！

伊藤寿美代表（米・りんご農家、高等部保護者）：ボランティアをしている自分の姿を子どもたちに見せることで、子どもたちがボランティア活動をするのが当たり前になったらいいなと思っている。お勤めしている人でも参加しやすいように、ボランティア休暇を取れるような職場環境になればいいのと思う。

宮下知事：職種にもよるが今は休暇を取りやすくなっている。職場以外の活動に参加することで自分自身の幅が広がっていくので、ボランティア活動などは良いことだと思う。



後方は学校教育課・生涯学習課

福士さん（森養後援会長・元PTA会長・元県特P連会長・歯科医師）：障がいがあっても雪かき・草取り・ごみ拾いなど、地域貢献できることを知ってほしい。

宮下知事：アメリカで仕事をしていたときには、みんなで支え合うのは当たり前で、段差があるところでは通りかかった人たちがみんなで車椅子の人の介助をするのは普通のことだった。来年の全国障害者スポーツ大会を契機にアクセルを踏んで頑張っていきたい。

三上さん（高等部保護者）：子どもたちや卒業生が利用している福祉事業所、市役所などの公共施設にひまわり応援隊のパンフレットやひまわり通信を置かせてもらえばいいのではないかなと思う。

宮下知事：県の施設にどうぞ置いてください。

伊藤栄治さん（元森養PTA会長・会社員・高等部保護者）：四年間PTA会長をして感じたのは、教職員の負担軽減に学校ボランティアは不可欠だということ。行事や授業にボランティアが入ることで、先生方は子どもたちの教育に専念できると思う。森養の取組みを他校にも知ってもらい、知事の「青森モデル」をパクって😊「森養モデル」を展開したい。各校のボランティア関係者で情報交換会を行うとか、各校に窓口となる教頭先生の他に地域コーディネーターを置く必要があると思う。

宮下知事：今はPTAをやめるところも出てきている。「どの職の人がやるか」より「誰がやるか」が大事なのではないか。「仕事だから…」では広がりがない。皆さんはどう思いますか？

工藤事務局（元森養事務長）：森田養護学校のコミュニティ・スクールを形骸化させないように、子どもたちや先生方のためにできるお手伝いをしていきたいと思ってひまわり応援隊を立ち上げ、これまで続けてきた。子どもたち・先生方・ひまわり応援隊のメンバー、地域の方々からもらっている笑顔と幸せが、継続のエネルギーになっている。

平山さん（元小学校教員）：昨年度は小学部の子どもたちに6回絵本の読み聞かせをした。先日「もりたの子ども食堂」でも実施した。ひまわり応援隊のメンバー数人とともに、効果音や歌・体操・エプロンシアター・シヨップなど工夫し、「4Dの読み聞かせ」です。知事のおすすめの絵本はありませんか？

宮下知事：三戸出身の馬場のぼるの絵本「11ぴきのねこ」🐱

赤城さん（つがる市社会福祉協議会森田支所長）：「地域協働菜園」は森田養護学校・森田小学校・もりたの社協の三者で協働し、野菜などを育てながら交流する場。ひまわり応援隊やシルバークラブ・地域住民がボランティアとして参加している。年4回開催している「もりたの子ども食堂」は、さらに、もりた保育園・森田中学校・母子寡婦福祉会員・身体障害者福祉会員なども参加し、



みんなでご飯を一緒に食べながら地域を元気にする活動。これらの活動を通じて、誰もが気楽に参加できる、世代や障がいを越えてつながりが生まれるボランティアの輪を地域全体に広げていきたい。

夏は8／1（金）、秋は11／2（日）、冬は2／15（日）にこども食堂をやります。ぜひおいでください！

館山さん（高等部保護者・農福連携に取組む農家）：校内でのボランティア活動はもちろんだが、校外で活動する場が増えることでひまわり応援隊のことも森田養護学校のことも周知されていくと思う。昨年農福チャレンジ事業を活用してB型事業所の利用者さんたちに小玉スイカの作業を手伝ってもらった。イキイキと働く利用者さんの頑張りにはとても驚いた。西北地区は農業人口も減っている。農福連携もまだまだ進んでいない。農福連携にはボランティアの心・福祉の心が大切だと思う。これからも農福連携を続けていきたいし、それが障がいのある人たちのやりがい生きがいになればいいなと思っている。

宮下知事：ユニバーサル農業は可能性がある分野。施設側の理解が大事になると思う。

大平さん（中学部保護者・高齢者施設職員）：障がいがあるというだけで「これはできないだろう、やらせられない」と決めつけず、子ども一人一人が何が得意なのか、その得意なことを伸ばそうと頑張っている姿を地域の人達に見てほしいと思う。ひまわり応援隊の中にも親の介護真っ最中のメンバーもいる。介護についての情報やちょっとした技を伝えることもあるし、逆に障がいのある息子の子育てや仕事の悩みを聞いてもらったりしている。学校や職場の仲間ではなく、ボランティア仲間だからこそつながりがある。子どもが卒業してからもお互いに元気を与えあえるような仲間として、活動を続けていきたい。

工藤事務局：参加予定だったが急遽欠席となった**B型事業所 REPLAYの廣岡励さん**から、知事へのメッセージを預かっている。廣岡さんは春と秋に行われる小学部の道路クリーン作戦に、施設利用者で本校の卒業生を数名伴って参加してくれている。卒業生たちが小学部の子どもたちをサポートしながらごみ拾いをしている様子は、先輩としての優しさと、後輩に希望を与えるような素晴らしい振る舞いである。卒業生が活躍している企業や、地域の他の福祉事業所にも参加してもらえばよいと思う。廣岡さんは福祉業界に入って初めて「福祉」の世界を意識するようになった。もっと早い段階で「福祉」のことを知っていれば、共生社会の価値をより深く理解できたと思う。もし義務教育段階で「福祉」をテーマにした教科を設けたら、知事はどのような社会的効果が期待できると思うか。この質問に私は、教科として「福祉」はないが道徳・安全・防災・環境などの授業の中で「福祉」も含めて様々な形で勉強している。より「福祉」の視点を加えて体験・探求する授業を展開していくのがいいのでは。その意味でも校内だけでなく地域や社会とつながる授業をしている森田養護学校は幸せかも。

宮下知事：インクルーシブ教育だね。障がいのあるなしに関わらず、子どもたちが同じ教室で一緒に勉強する機会が以前よりもずっと増えていると思う。あとは、誰しもが高齢者となるし、障がい者となる可能性がある。「福祉」は人ごとではない。常に自分ごととして考えることが共生社会の構築に大事なことだ。

～最後にみんなで記念撮影をし、校内を見学しました🌻～



全国に先駆けて給食費無償化した知事は給食に興味深々



生徒の作業製品をプレゼントする鈴木校長



中学部4組の生徒と握手する宮下知事



小学部7.8組は青森県について勉強中！
自筆の地図を手に歓声をあげる子どもたち

あっという間に対話の時間は過ぎました。宮下知事はメモを取りながら、私たち一人一人にしっかりと向き合っ
て耳を傾けてくれました。宮下知事が私たちを応援してくれていることが分かり、参加者の表情はより明るさが増
したようでした。森養ひまわり応援隊との対話集会でしたが、宮下知事に森田養護学校と森田養護学校の子どもた
ちを知っていただくことができて何よりでした。ご協力いただいた方々に深く感謝します♡

何かを行動に移すとき、必ず誰かが先頭に立ち、一緒に行動しなければならない。その為にも発信することが大切。今回少しでもひまわり応援隊が先生、児童、生徒たち、私たちのことを発信できたのではないかと思います。久々にコンサートに行った気分になりました！【大平奈央】

ひまわり応援隊は組織的にはほぼ構築されていると思いますがさらに充実させるために、運営方法をしっかりしたものにしていく必要があると感じています。皆さんのために何ができるか、何が最適なのか、しっかり考えて行動したいと思います🐼 【木村推進員】

感想

宮下知事が会議室に入ってきて開口一番、「2年間あおばなをやって1番元気！」と言ってもらえました。嬉しかったです。対談は終始笑いが絶えず、メンバー一人一人のお話に耳を傾けてくれ、知事の考えや思いを聞く事ができ、とても有意義な時間を過ごす事ができました。

これからも元気が取り柄の森養ひまわり応援隊で活動していけたらいいなと思っています。 【伊藤寿美代表】

知事を含め、みんな和気あいあいとしていて、運営スタッフとして参加した私も楽しかったです。ひまわり応援隊みんなの思いが知事に届いたと思います。 【柿本優華】

知事には、短い時間の授業参観ではありましたが、児童生徒へ気軽に声を掛けていただき、ありがとうございました。 【木村教頭】

8月のボランティアのお知らせ

8月1日（金）「ふれあい農園収穫交流会・もりたの夏の子ども食堂」

- 9:00 あーすとぴあ集合・ジャガイモ収穫・カレーライス作り
- 10:00 夏の遊び
- 11:00 マジック
- 11:30 絵本の読み聞かせ（平山さんと仲間たち）
- 12:00 昼食（カレーライス配膳）
- 13:00 後片付け・解散

分担して作業します。

- 全員
- Aグループ
- Bグループ

※お子さんとともに学校に参加申し込みをした方は、ひまわり応援隊に加入していないに関わらず、カレーライス作りや配膳にご協力くださると助かります😊

※ボランティアの参加申し込みは7/18（金）までに工藤まで（090-5186-9334）



8月22日（金）「図書貸出支援」

- 10:00 つがる市立図書館集合
- 10:00~10:45 返却・選書・貸出手続き
- 10:45~11:10 学校へ移動
- 11:10~11:45 ブックトラックに配架
- 終了後解散



8/22（金）に参加できる方は8/18（月）までに工藤（090-5186-9334）へご連絡ください

8月22日（金）「花壇整備」



- 9:30 職員玄関集合
- 9:30~11:35 花壇整備（草取り）
- 11:35~11:45 後始末 終了後解散



9月のボランティア予告

- 9/5（金）防災教室 9:30-11:10
- 9/9（火）小・協働菜園（枝豆収穫）
10:25-11:30
- 9/26（金）図書貸出支援・花壇整備
9:30-11:45

8月30日（土）「馬市まつり」お手伝い

詳細は未定ですが、小学部低学年の活動に見守りなどのお手伝いが必要になるかもしれません。 わかり次第お知らせします。

編集後記（文責：工藤）

★これまで「ひまわり通信」は、学校ホームページの「コミュニティ・スクール」欄に掲載してもらっているほか、登録してくださったメンバーに配付・郵送してきました。今年度から森田養護学校のご理解・ご協力により、全児童生徒の保護者さんに配付できるようになりました。 ★「森養ひまわり応援隊」に興味、関心がある方、ボランティア活動に興味、関心がある方は、下記までご連絡ください。 **お試し参加、大歓迎です！** ★

現在登録者数は、保護者・旧職員・地域の方々など44名＋2事業者さんです。 ★森田養護学校や子どもたちを応援しながら、地域の方々や保護者同士や福祉関係の事業所などつながりませんか？ ★森田養護学校のスローガン「太陽に向かって ひまわりのように」は「森養ひまわり応援隊」のテーマでもあります。 **できる**

事をできるときに無理のない範囲で、一緒に子どもたちを応援しましょう！

森養ひまわり応援隊 代 表 伊藤寿美 TEL 080-3324-9469

事務局 工藤道子 TEL 090-5186-9334 FAX 0178-38-9850



E-mail kudou.michiko@lemon.plala.or.jp